

「原発ゼロ」調布行動 ニュース 2023年3月12日

調布市民のみなさん

このニュースは、毎月11日に行なっている「原発ゼロ」調布行動をめぐる情報を交流するものです。今日は、フクシマ原発事故から「満12年」という節目を迎えた3月11日（土）の「第123回行動」についての報告と、満12年1か月となる4月11日（火）に行なう「第124回行動」のご案内をお届けします。（編集者）

事故から満12年の厳粛な節目に 原発積極活用・軍事優先の岸田内閣への怒り高く 88人が第123回「原発ゼロ」調布行動



今回の司会・進行は「調布狛江合唱団」有志のみなさん。司会は小林優さん、いつものようにマイク・機材などの準備を引き受けている鈴木勝雄さんが進行（スピーチの調整）も行ない、記録は嶋田 紅さん、写真は鈴木彰が受け持ちました。（編集部）

× × ×

社協のバザーや献血の車等が広場の大半を使っている上に、市が主催する「東日本大震災慰霊祭」もあり、今回の「原発ゼロ」調布行動は、いつもとは異なるグリーンホール外階段近くで行ないました。

「福島を忘れない」の横断幕、調布行動の2本ののぼり、「声を上げよう 東海第二原発はいらない」の横断幕、「原発ゼロ」、「原発のない未来へ」のプラカードなど思い思いのグッズを掲げた参加者は、88人におよびました。



◆ 司会の小林さんが開会を宣言し、出前演奏班「東北人」とバンドグループ「玉手箱」の歌で開始。

♪たんぽぽ

♪群青

36000人も、いまだにふるさとに帰れない人がいる。

♪ふるさとを汚したのは誰だ



◆ 大井やすこさん（柴崎） いわき市小名浜にある、いわき放射能市民測定室「たらちね」は、子どもたちの放射能による健康被害を心配するお母さんたちの願いを込めて2011年11月に開所した。この会場でも、たらちねへのカンパを何回となくお願いしてきた。そのたらちねから先日送られてきた活動報告書に、とても気になる箇所があった。

福島イノベーションコースト構想などの計画がある。その教育・人材育成の項目の中に、トップリーダーの育成として浜通りの数ある高校の中で3校が指定されている。子どもたちを巻き込んで、企業と国に都合のいい、期待される高校生を育成しようとしている。行政が教育にタッチしようとするのは学術会議の問題と同じ構図。グリーントランスフォーメーションとかロボットテストフィールドとかイノベーションコースト構想とか、やたらに和製英語を使っているが、原発事故の被災者と犠牲者、そして被災地を狡猾に利用した構想。国民を騙そうとしていることがみえる。それを、たらちねが危惧している。

◆ 二見真由美さん（深大寺） 昨年亡くなられた相馬市出身の詩人、若松丈太郎さんの詩の朗読。「今、求められていること」

◆ 菊池公子さん（深大寺） 原発をなくす全国連絡会が福島第一原発事故から12年を迎えるのを前に3/4に、日比谷野外音楽堂で開いた「福島を忘れない 原発推進をゆるすな 3・4原発ゼロ集会」についての新聞記事の読み上げ。各地から5000人が参加した。岸田政権の原発回帰への大転換は、事故の教訓、被災者を踏みにじるもの。原発ゼロこそ福島原発事故の最大の教訓。国の政策を変えるために声をあげ、行動していく。以前と比べて参加者が少なくなっていることに危機感。福島は終わっていない。声を上げ続けよう。



◆ 蔵野武さん（年金者組合） 2013年に小泉元首相が、「明日の政治のために」と題して講演したのを聞いた。90分全て原発の話だった。3つの内容。1つ目。原発は、安全でコストが安いと信じていたが間違いだった。チェルノブイリの事故、スリーマイル島での事故があった。一刻も早く原発は、やめよう。2つ目。再生可能エネルギーの比重を高めよう。原発が全て止まっても電気は足りている。3つ目。今ある原発の廃炉の問題。戦争直後の大混乱、その後の円高、オイルショックを乗り越えてきた。何とか叡知を集めて廃炉にとりくもう。

在任中に言ってほしかった、ちょっと遅かったという気持ちはあるが、今からでも原発は作るな、売るな、動かすな。

年金者組合からのお知らせ 3/30、6/2、7/27 と3回かけて丸山重威さんを講師に「いま起きている軍拡と政治」の学習会を行う。奮って参加を。

◆ 沼倉潤さん(多摩市) 首都圏ネットワーク一斉行動が、いまこの集会も含めて全国82カ所でいっせいに行われている。東海原発はいらない。今日も、午後抗議行動を予定している。女川(おながわ)原発でも事故が起きている。規制委を通った原発でも、事故が起きている。原因がわからないものもある。高浜原発では、ケーブルの接触不良で制御棒が1本、誤作動を起こしてショートした。ケーブルの不具合は建設当時からあったとされている。今後も事故が起きる可能性は大きい。これが原発の恐ろしさだ。

岸田内閣は、原子力基本法という原子力の憲法ともいえる法律=公開が原則のものを、将来にわたって原発を推進するために「閣議決定」で変えようとしている。周りの方にその事実を伝えてほしい。法案を通してはいけない。統一地方選挙で、原発推進、軍拡進めようとする人を議会に送るな。東海第二原発を止めるためにみんなで行動しよう。みんなが頑張れば止められる。

縦断幕「原発が原爆になるおそろしさ」を持つての訴え。

◆ 石川康子さん(布田、市民の願い実現!調布大集会実行委員長) 市議選に向けての大事な集会を4月1日に、この場所で行なう。大軍拡と原発を推進する岸田政治のもとで、戦争の足音が聞こえている。閣議決定でどんどん決めていく。

4月の市議選は「岸田ノー」を突きつけなくてはならない選挙だ。真に民意を反映したものにすることが必要。命が大事、物価高反対、原発反対の声を、願いを、あげていこう。4/1に調布駅前広場で集まりましょう。

もう1つピンクのチラシ。今の寝ぼけた議会を変えていくため、新人候補の意見を聞く会を行なう。しっかり代弁してくれる人を見極めよう。4/2市民プラザあくろすホールで行なう。市議選の投票率をあげよう。



◆ 鈴木彰さん(多摩川) フクシマ原発事故から12年。県の内外に避難しなければならなかった26万人の被害者は、いのちと暮らしを脅かされてきた。事故当時の民主党政権とともに避難者救済等に努力を傾けた時期を経て、1年8ヶ月後の11月11日に、全国での運動の高まりに呼応して調布駅前集まった80人が、この「原発ゼロ」調布行動を開始した。3か月後に第2回、それ以来、ずっと継続して1日も休まず続けてきた行動は、全国のみなさんとともに大きな成果をつくってきた。いまや「原発ゼロ」は、党派をこえて社会の常識になっている。世界でも「核兵器禁止条約」とともに「脱原発」は大きな流れとなっている。

このことをお互いの確信にしながら今後も行動していこう。岸田内閣はいま、政権維持、大企業の利益維持のため、強権政治を押しつけてきているが、これは「狂気の沙汰」であり、耳も目も国民や世界の流れに向けていない。このムリは最終的には通るものではないが、その過程で押し付けられる犠牲は小さくない。強権発動を許してはならない。問答無用に原発再稼働を推進しようとする岸田内閣。大軍拡、大増税路線をストップさせることを、12年の節目で約束しあいたい。

4/1市民大集会と4/2新人候補に聞く会を成功させ、その上で次回の124回「原発

ゼロ」調布行動を迎えよう。世論を変える。政治の流れを動かしていく、そういう決意を込めて、今日の行動の締めくくりの挨拶とする。

- ◆ ♪約束のうた
♪青い空は
- ◆ 記念撮影（トップ写真参照）

13年目の第1回、新たな気持ちで 第124回「原発ゼロ」調布行動

日時：2023年4月11日(火)

10時半～11時半 於：調布駅前

今回は4月11日。福島原発事故から13年目の第1回、私たちの「調布行動」としては第124回目の行動です。4月の企画・進行・司会は、今回に続けて「調布合掌団有志」のみなさんが引き受けてくれます。

参加される方は、それぞれの思いをプラカードやミニカードに書いて集まりましょう。どんなことでもいいから「ひとこと」は言ってやろうというトークの準備もしてください。色んな人が、短くてもいいから「ひとこと」を！と願っています。

準備してきたのにトークができなかった場合、メモを編集部にいただければ、このメールでみなさんに伝えます。

*コロナ・ウイルスへの感染防止の対策をこらして（体調を崩された方は勇気をもって「自宅待機」を）ご参加ください。

*小雨の場合はプラカードを持ってスタンディングなど、可能な範囲の行動に切り替えます。大雨の場合は、参加者各自でご判断を！

なお、3月以降の「窓口さん」は、以下のように申し合わせていますが、われこそはというグループはどうぞ名乗り出てください。

125～126回（5～6月）

学習サークルアネモネ

127～128回（7～8月）

年金者組合